



赤羽別院報 第59号
発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72-2308
Eメール akabane\_betuin@katch.ne.jp

お念仏はこころの呼吸 (前)



思わずらうな
なるようにしかならぬから
今を切に生きよ

積尊

お釈迦さまのお言葉に似た
ような事を、我々も口にす
ることがあります。どうにもな
らん事をあてもない、こ
うでもないで悩んでいる時、自
分にも人にも、そんなことい
つまで悩んでいる、なるよう
じしかならん。そしてあき
らめともしない感情のまま
で終わることが多いのです。
だから「今を切に生きる」に
はなかなかありません。逆
に申せば「今を切に生きる」
一点が明白ならば、なるよう
じかならんと、思わずらう
こともないでしょう。

一呼吸の間

「今を切に生きよ」というお

諭しの背景
にどのよう
な正覚があ
るのでしょ
うか。

ある時、
お釈迦さま
は、「人生と
は何かにと
は何か」と
弟子達に問
われました。
ある弟子は
「生まれてか
ら死ぬまでの間です」と答え
ました。またある弟子は「今
日一日の間です」と答えました。
これらの答えにお釈迦さまは
頷きませんでした。すると「一
呼吸の間です」と答えた三人
目の弟子に対し、お釈迦さま
は頷かれたのです。さて、こ
の問答は何を言っているので
しょうか。

いのち

お釈迦さまは次のように言
われました。
いづれ死すべきものの
今、いのちあるは
ありがたし

「今」とは一呼吸にいのちあ
るを「ありがたし」と感じて
おられる今です。この「あり
がたさ」が、お釈迦さまのこ
ろを支えてきた一念であるこ
とが知らされてきます。人生
の基本であり根本において、「あ
りがたし」がないなら、いかに
なる人生に「ありがたし」が
成り立つのかを言っています。
条件次第、思い次第、縁次第
でどうにもなる人生ですが、
いかになることも、いのちの
根本のところでは「ありがたし」
が欠落していれば、夢幻の人
生に終わることを教えています。

ふたつの人生

ある91歳の老人男性の日記
の最後に次の言葉が記されて
あります。
人間に生まれて
人間がわからない
人間に生まれて
人間をもてあます
ただ歳とって
さびしさが増すばかり

生死観

一呼吸にいのちをつなぐよ
うに、心の一念が人生を買い
ていくかにか
かっています。
一呼吸の中
に「生」と「死」
が内在してい
ます。止まれ
ば即、死のな
のですから。さ
て、「この「生」
と「死」を日
ごろどう見て
いるのでしょ
うか。多くの
人は「生」に
立って「死」
を考えます。
今が幸せなら、それをうばう



講師プロフィール

三島 多聞 (みしま たもん)
1944年生まれ。京都外国語
大学英米語学科卒業。大谷大学
大学院仏教学修士課程修了。台
湾・師範大学研究員国文科に留
学。2005年9月より大谷派宗
門の最高議決機関である宗議
議員及び参務を勤める。高山別
院輪番、高山教区真蓮寺住職
著書、『寿命を生きた人、中村
久子』【花びらの一片】

「死」は恐ろしく、いつ来るか
わからない不安に「死」はつ
つまれていきます。そして縁起
をかつぎ、語呂合わせしたり
期日を占ったりして、空しく
人生を過ごす。これに對して
仏法では、「死」に立って「生」
を見ます。いのちは限りある。
今、死んでもおかしくない「生」
を生きている。ではいかに生
きるべきかという人生がはじ
まる。このこととうろろを一点
おさえたところに「呼吸」の
大切さがあります。

吐く息・吸う息

息を吐ききったところは
「死」です。そこで思わず息を
吸うはたらきによって「生」
に生きていく。この一呼吸のは
たらきは、我が息を超えた生
と死のいのちの営みです。自
らの力、自らの意思で呼吸し
ているではありません。よっ
てこの事実を、「ありがたし」
と言えるところに「信仰」と
いうことの本根があります。
したがって、「一呼吸の間に「生」と死」が実在するように、信
仰の中にも「生」と「死」があり
ます。いのちの根本を一呼吸
に在ることを押さえて、そこ
に覚知する世界を念仏の教え
として説かれていくことに留
意したいものです。

一念の念仏

中国は、唐代の高僧、善導
大師の教えをこの一呼吸の間
の、吐く息・吸う息にあてて
(一念の信仰)を思わせてもら
うと、念仏の教えがよくわか
ります。善導大師は次のよう
に言われました。

前念命終
後念即生
「命終」は死です。吐く
息にあたります。「即生」
は生です。吸う息にあた
ります。
日ごろの妄念に気づか
され、それを捨てられる
一念を「前念命終」と押
さえられる。前念の妄念
が終る時です。このことを
親鸞聖人は「本願を信受す
る」からであると押さえられ
ました。本願(いのちそのも
のが持つ願い)を信受するか
らこそ、妄念が捨てられてい
く。捨てられ、思わすらう
ことから解放されることを
「後念即生」と言われ、阿弥陀
(いのちそのものはたらき)
が、生きる力となっていく。
親鸞聖人はこそ「即得往生」
と教えられました。

「即得往生」を、私達が親し
くお勤めしている「正信偈」
で言えば、「自然即時入必定
でしょう。
自然：こちらの思いを超えて
即時：今たなちに
入必定：確かないのちの浄土
に包まれてある
こういただけることを即得
往生と表現してあるでしょう。
吸う息と吐く息で一呼吸。
前念と後念で一念。身体上の
一呼吸が連続して生命を維持
し、精神上の一念の念仏が人
生を貫く。一呼吸の大切さに、
同時に一念の念仏の大切さが
知らされてきます。気がつけ
ばこの一呼吸に生命があり、
ふり返れば一念の念仏に人生
の意義を感じる。念仏は息です。
親鸞聖人の御臨終の様子を「御
伝鈔」では、「念仏の息たえま
しましおわらんぬ」を思わせて
もらいます。

別院行事のご案内
夏の御文げのおふみ
7月15日(月) 午後1時30分
法話 第9組 福泉寺 木村 斉氏
赤羽ブロック世話方会総会
7月15日(月) 午後3時

暁天講座 きょうてんこうざ
8月21日(水) 午前6時
講師 第16組 本證寺 小山 興圓氏
講題 「二河白道図解」
8月22日(木) 午前6時
講師 第8組 宿縁寺 織田 慶雄氏
講題 「今を生きる」

秋季彼岸会 しゅうきびんかい
9月22日(日) 午後1時30分
法話 六ツ美組 本光寺 福前 恵文氏
9月23日(月) 午後1時30分
法話 第10組 蓮正寺 福垣 智氏
報恩講 ほうおんこう
10月14日(月) 午後1時30分
法話 第11組 本證寺 柳野 明仁氏
10月15日(火) 午前10時・午後1時
法話 第7組 本宗寺 堀田 護氏
10月16日(水) 午前10時・午後1時
法話 教学研究所所属 鶴見 晃氏

声明研鑽会 しょうめいけんさんかい
8月より 第一火曜日から
午後4時から5時30分
講師 第8組 宿縁寺 織田 顕慶氏
持ち物 大谷声明集上 昭和法要式
中陰動行集
服装 間衣 輪袈裟 念珠
対象 住職・有僧籍者
会費 無料

晨朝法話 じんじょうほうわ(午前7時)
7月13日(土) 第11組 唯法寺 占部 寧氏
7月28日(日) 同 善福寺 山背 隆文氏
8月13日(火) 第12組 浄念寺 吉良 優氏
8月28日(水) 同 了願寺 藤谷 信重氏
9月13日(金) 第13組 教榮寺 間島 享氏
9月28日(土) 同 慶徳寺 法輪 篤氏
※後編を次号(本年10月1日
発行予定)に掲載致します。
本号と併せてご覧ください。

# 仏弟子として歩む

## 61名が帰敬式受式

本年4月11日赤羽別院に於いて門首後継者の本山鍵役・能慈院殿の剃刀によって帰敬式が行われました。61名の方々が法名を授かり、仏弟子として新たな出発をされる事となりました。

前日は春の嵐でしたが、受式者皆さんの門出に相應しく、桜も残る爽やかな日となり、厳かな雰囲気の中での帰敬式開式となりました。

はじめに合掌し念仏申し、真宗宗歌斉唱。三帰依文を唱和し仏法僧の三宝を大切にしながら生きることを誓います。

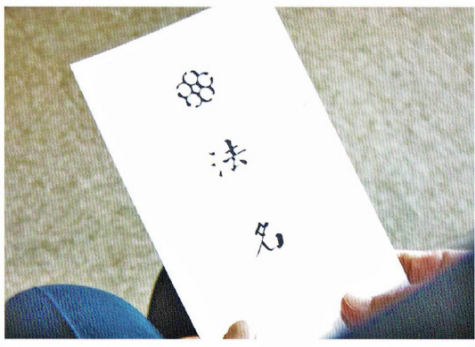
剃刀の儀では、能慈院殿によりおかみそりを当てられ、厳肅な面持ちの受式者皆さんの合掌の姿が美しく印象的でした。



執行の詞のなかで能慈院殿は、親鸞聖人のあきらかにされた念仏のみ教えを聴聞することを勧めくださるとともに、帰敬式受式をお祝いくださいました。

法名伝達では、第14組・安専寺門徒・法名釋勝智・斎藤勝氏が法名を授かりました。また、第10組・願正寺門徒・法名釋好明・石川宏明さんが誓いの詞を読まれ、本当の自分の姿に目覚めるよう照らしてくださいる南無阿弥陀仏のこ恩を思いつつ生きることを誓われました。

最後に輪番より受式者お一人ずつに法名が伝達され、恩徳讃斉唱で帰敬式は閉式しました。



## 報徳会 厳修

春らしい陽気のなか、本山鍵役・能慈院殿をお迎えし報徳会が厳修されました。

堂内奥から静寂を破る様に喚鐘が叩かれたと、宿縁寺雅楽会の奏でる笛・箏・笙の三管が響きました。それに合わせ、其々の楽器が命を吹き込まれるように鳴り響き出しました。各組の代表者が式支配の合図に合わせ出仕を行い着座。最後に鍵役が出仕され法要の幕が開いた。

登高座そして「仏説阿彌陀經」下高座後には参詣者全員での「正信偈」がお勧めされた。調声の鍵役の次に14組代表東正寺石川住職・13組代表長壽寺和田住職が見事な巡讀のお役を果たされ、賑やかで晴れやかな報徳会が厳修された。



今回の報徳会は準備段階より列座が中心となり、として模索されている当別院の有り様の一つを具体的に表現された法要でもあった。

集い、学び、経験の場

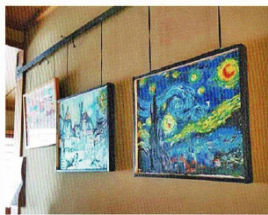
各組の代表者参動者には事前研修会が用意され、出仕作法から着座退出までの一連の作法の確認、また脱いだ草鞋の扱い等、それぞれ細かい所作の模範法要も行った。

外陣には地域の僧侶に呼びかけを行うだけでなく、列座主催の声明研鑽会で学侶にも加勢の呼びかけを行った。



受式者一同

### 別院参拝のきっかけに 絵画展とコンサート



地域の方や団体からの場としての借り入れ要請に応える形で、本年4月6日から14日の9日間、赤羽別院において、絵画展とコンサートが開催されました。



期間中は、介護・障がい者施設の入所者やスタッフの描かれた書や絵画数点が別院廊下に展示され、別院を訪れた多くの方が鑑賞されました。また、鼎格式にて本企画の案内をたしなむ、受託された方をはじめ、介護関係者など、別院に初めてお参りするという方が多くみられました。

## 春の法要に参拝

去る4月1日、第9組良興寺門徒31名が、本山の「春の法要」に団体参拝をした。一行はまず、宇治の平等院へ参拝し、境内の博物館「鳳翔館」にて展示物を見て回り、雨が落ち始める中、続けて本山へ向かい、屋過ぎに御影堂門前に到着。記念撮影をした後、両堂へ参拝した。

御影堂は参拝者で溢れんばかりであり、各教区から団参された方々の、色とりどりのタスキが目立っていた。法要に先立ち、但馬宗務総長より挨拶があり、続けて親鸞聖人御誕生会記念講演がおこなわれた。講師は真宗大谷派教学研究所長・楠信生氏。楠氏は「人間に生まれる」という講題のもと、お話をされ、源信僧都の作とされる『横川法語』の中の「一人間に生ま



御影堂前にて

### 青木氏・佐々木氏の法話

## 赤羽別院春季彼岸会



彼岸会の法話

春暖快適の好季節となった3月20・21日の両日、赤羽別院において春季彼岸会が勤修された。お彼岸は仏教各派を通じてお勤めされ、春秋二季、中日を境に前後七日間の期間がある。赤羽別院においては、二日間各日午後1時30分より勤修され、中日の20日には、碧南市蓮成寺の青木一範氏、21日には、岡崎市上宮寺の佐々木照美氏が法話をされた。

## 本願の教えに学ぶ 第10組同朋のつどい

5月26日午後2時から凡そ2時間、猛暑の中、大谷大学准教授の藤元雅文氏を講師にお迎えし、組の基幹事業として約30年間続いている同朋のつどいを行った。藤元先生から様々な事例を挙げて「本願の教えに学ぶー人生を支えるものー」と題し、お話しいただいた。ある公務員を勤め上げた方が「もう、世の中のことは分かったと思っ」と言われる。ではなぜ、そのように感じたのか。それは公務員の仕事を行う傍ら、地域社会を支える消防や警察、病院など社会を支える組織との関わりを持つ一方で、組織の中で様々な問題に直面した時、これまでの経験や知恵、人との繋がりによって問題に対処してきたことに起因する。理解しているという構図が、分かったつもりという心根



仏教が私たちに人間を見る視点で我々が人生を考えると、若いや病の問題、死という問題が差し迫った時、どんな準備も役に立たないと仰る先生の声が堂内に響き渡った。

## 今井町 称念寺・金台寺へ 赤羽ブック世話方会研修

去る5月7日、赤羽ブック世話方会研修会が開催され、輪幹・主幹・真役・世話方、総勢38名が参加しました。はじめに壺原市今井町の浄土真宗本願寺派・称念寺を参拝しました。参拝に先立ち今井町の案内人より、観光マップをいただき、概要説明を聞きながら称念寺へ向かいました。今井町は、称念寺の境内地として発達した「寺内町」です。



赤羽ブック世話方会研修会

称念寺本堂は、江戸時代初期に再建された大規模な本堂で、この日は修復の工事中のため、ヘルメットをかぶり10名づつ本堂内を見学し、住職の今井慶子氏より丁寧な説明を受けました。午後からは、同じく今井町に在る、浄土真宗本願寺派金台寺を参拝しました。金台寺は、蓮如上人の弟子・了妙尼が開いたお寺で、『蓮如上人御一代蘭書』にもその名前を見ることが出来ます。また、蓮如上人から下付された御杖と鉄鉢が伝えられていたほか、境内には安政6年に建立された了妙の石碑がありました。日帰りではありませんが、歴史ある寺院を参拝し、脈々と教えが伝えられてきたことを学ぶ充実した研修となりました。

## 子ども大人もみんな 花まつりが勤まる

桜の花がちらりと咲き始めた3月26日、日進公民館のホールを借りて、第14組児童教化部主催の花まつりがお勤めされました。



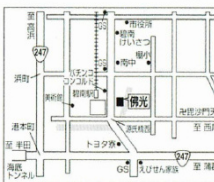
花御堂を囲んで

花まつりが初めてという子どもから、昔を懐かしみ参加する大人まで、41名が参拝し、花御堂のお釈迦様に甘茶をかけてお祈りをしました。続いて、手作りのパネルシアターが上映され、お釈迦様の一生を一同が真剣に見ていました。

仏壇・神具・墓石・製造販売修理

## 佛光

創業 明治20年  
碧南市源氏町 一丁目45-1番地  
休日/火曜日  
☎0566-41-2044



「ごぼさん」という呼び名に漢太君の抱く別院への親しみを感じさせられます。これからは赤羽別院が地域に愛され、みなさんの心の中にとどまるとなれば、何となくお祈りできるようになりました。

赤羽別院様へ  
ほくは小さい頃から友達とごぼさんで集まり、よく遊びに行っていました。赤羽別院親宣寺という本堂の名前や歴史を教えてください。ますますごぼさんが好きになりました。いろいろと詳しく教えてください。ありがとうございます。また遊びに行かせてもらいます。

6年2組 辛島凛太

## 親しまれるごぼさんに 学生の清掃と手紙

一色西部小学校を卒業し、本年4月から中学一年生になったわたしも、2度も赤羽別院の清掃に来て下さいました。常には手のとどかないような所の雑巾がけやガラス拭き等を一生懸命に行っていました。子ども達の清々としたお掃除の姿、更には、その子ども達から、赤羽別院へお手紙をいただきましたので紹介いたします。

# 拡大版 ナイスショット!

本号2頁に掲載した「帰敬式」の当日の様子を、より広くお伝えするため、当日撮影された写真を複数掲載いたします。



## 宗祖のご生涯に学ぶ 第10組帰敬式法座

本山が全国展開する「帰敬式法座」が赤羽崇敬区内の二ヶ組(第10組・第14組)にて実施されています。赤羽御坊新聞では、先号に引き続き法座がどのように進められているのかをお伝えしていきます。

昨年12月から5度開催された帰敬式法座。4月11日、赤羽別院にて法座参加者の中から17名が帰敬式を受式された。法座では「宗祖親鸞聖人のご生涯に学ぶ」前半生を中心として「一」と題し、各回小テーマを設け、お話しいただいた。

9歳で得度した船宴(親鸞)は、比叡山での20年間、修行によって煩惱を断ち、悟りを感得しようとするも煩悩は消えず、悩む船宴は救いを求めて下山の後、船宴は日本に仏教を開き、自身の人間として在家生活を実践した聖徳太子が建立したとされる六角堂に向かい、参籠の後、夢告を受け、在家仏道を掲げられた。念仏の教えに出遇った親鸞

は、「彌多生のあいたにも出離の強縁しらざりき本師源空いままずはこのたびむなしすぎなまし」と和讃に謳われていて、「私の人生において、迷いの道を離れる確かな縁があった。生涯、法然上人に出遇う事がなければ、空しく過ぎる人生となっていた」と法座では「後半生について学ぶ」という力強い声が聞かれました。



座談会

### 帰敬式に感謝 第13組 慶徳寺門徒 外山初枝

私の歩いてきた道。残り少ない人生を振り返る中で帰敬式のことを知りました。残りの人生を大切にしたいとの思いから、受式をし法名「釋尼初峰」をいただきました。その日から、穏やかな毎日、感謝しつつ、心と頭の中で時を刻み、仏さまに自然と手が合わさるようになりました。心豊かに大切に日々を過ごしていきたいです。更に、毎日が会心の出来栄と自負し、感謝の念を忘れまいと思えます。今日も赤羽別院から笑い声と楽しい会話で一日が始まります。有り難うございます。

合掌

## 第22回 御坊俳壇・川柳

俳句(順不同) 選者 三浦 貞美氏他

祠堂法要談話に笑ふ花の寺  
方丈に空仏終へたり四月尽  
濯がれしほど光増す甘茶仏  
三河路の古刹を訪て春情しむ  
蚊遣り火を焚いて持て成す蓮の寺  
寺参り心のみし春日和  
川 柳(順不同)

耐えて得た、ぞく年金いがある  
キヤップ付け昭和の鉛筆六センチ  
五輪まで命があれば金メダル

鈴木美津子  
大沢 美恵  
佐藤 哲也

お知らせ 定例の第23回御坊俳壇・川柳の締切は8月5日です。奮ってご応募下さい

### 夏の勉強会の御案内

◇第8組 同朋大会 8月24日(土)午後7時30分 西浅井町 宿縁寺	8月25日(日)午前10時 午後1時 家武町 圓滿寺 善照寺 真城 義慶氏	◇第9組 夏期講習会 8月23日(金)午前9時30分 午後1時 吉良町上横須賀 源徳寺	8月24日(土)午前9時30分 午後1時 山内小夜子氏 解放運動推進本部	◇第11組 暁天講座 8月18日(日) 聖蓮寺 8月17日(土) 中 聖蓮寺 8月19日(月) 井野優介氏 8月20日(火) 順海 唯法寺 8月21日(水) 柳野明仁氏 8月22日(木) 上 正念寺 8月23日(金) 百々海真壽寺 8月24日(土) 三浦真教氏	◇第12組 夏期講習会 8月25日(日) 上矢田 浄徳寺 8月26日(月) 山下 常照寺 8月27日(火) 天野信治氏 8月28日(水) 羽塚 惠教寺 8月29日(木) 左右田智世氏 ◇第13組 夏期講習会 7月13日(土) 午後1時30分 小焼野町 了願寺	◇第14組 夏期講習会 6月13日(木) 午後1時30分 一色町酒手島 良宣寺 6月14日(金) 午後1時30分 午後1時30分 一色町池田 慶徳寺 同朋大学名誉教授 尾畑文正氏 講題「世界を開くお念仏の声」 講題「私とは何者であるのか」 ◇第15組 夏期講習会 6月27日(木) 二階堂行壽氏 住職寺族の部 午前9時30分 若南市浅間町 西光寺
--	--	--	---	--	---	---

### 作品募集

#### いつでも絵画コンクール

【募集作品】お寺やお内仏を描いた絵画  
【対象】小学生  
【サイズ】四つ切り又は八つ切り画用紙  
【画材】自由  
【応募先】赤羽別院又は御堂入口応募箱  
※作品の裏に氏名、学年、学校名  
保護者名、電話番号を明記  
【締切り】本年7月20日必着  
【表彰】各学年 金賞・銀賞

本号は春に開かれた帰敬式の記事を中心としました。取材・編集作業をしながら、お一人お一人がどのようなお気持ちで受式をされたのかに思いを巡らすとともに、自身が法名をいただいた、仏弟子となつたことを、どう受けとめているのかを考えさせられました。

### 物品寄贈

エアポット一点  
杉浦 眞智子 様

貴重なご懸念をありがとうございました。

### 赤羽御坊新聞懇志

第17組 明法寺 様

門徒と僧侶で創る  
元気なお寺アワード2018 受章  
第14組 専興寺  
※次号にて詳細を掲載予定です

### お寺の掲示板

他人とくらべず  
面白がつて  
生きれば  
いいよ  
樹木希林  
第十三組・教養寺

おめでとう  
ございます